

## 編集後記

第4巻、第1号をお届けするに当たり、まず発行が大巾に遅れたことについておわびしたい。今後このようにならぬよう準備を充分にする方針であるが、会員諸志にもなお一層のご理解・ご了承を願うものである。

今年前半の気候もまずまず順調の模様、リラ冷えの頃と、梅雨もなく逆に雨不足が心配された位の不順さで被害も極く一部の由、他方景気も停滞気味でパツとしない昨今せめてお天気次第の本道農業だけは昨年以上の豊作となつてほしいと祈りたい。

この3月末には本学部および本学会の設立に、教室の設立に大いに労を尽くされた神澤・堀越・秋貞・中村・田村(俊)5教授は規定により定年退職されたが、この後の学会運営に支障を来たさぬよう後任理事役員を選任し、また新らしい発展に一段と努力することとしているが、会員各位よりさらなるご叱声を賜りたい。

誠に痛痕極まりないことであるが本学設立、薬学部・歯学部の発展隆盛にご労苦を払われた渡辺享初代理事長には6月16日、ついで本学部歯科薬理学田村俊吉前教授には6月18日急逝されたとの悲報が相ついだ。本学会にも種々のご尽力を賜った方々でここに謹んで心より哀悼の意を表する次第である。

ご定年の方のあとをうけて、北海道大学より富田喜内新学部長を迎えたほか、新々気鋭の教授・助教授の新任発令があり、益々教育研究の飛躍が期待されるとともに、本学会の発展、本誌の充実も果せることと思う。ことに大学院申請も間近いとき、本誌も院生諸氏の論文発表の場としての重責は大きく意義ある存在として他の学会諸機関の注目を集めるようなものに成長することを期待したい。

今回の総説は、口腔生理学中村治雄教授のもとでラット唾液線の分泌研究をされた倉橋昌司助教授の今日までの研究の集成である。貴重なお投稿を感謝する。

本誌の研究発表には英文抄録を付しているが、今回も毎号のごとく英文2編を頂いた。何れも注目に価する内容で、今後海外歯科大学図書館関係に積極的に頒布し、本学の研究活動の一端の紹介に努めたい。

研修講座として前回に続いて歯科放射線学金子昌幸教授より「顎腫瘍のX線診断(その1)歯原性腫瘍」を頂いた。日常臨床に思わぬときに遭遇することもあるので、このとき大いに役立つことと思う。生涯教育の一つとして、本誌をお活用願うや切である。

(Y.O.生)